

# I. 調査の概要（平成24年度）

## 1. 調査の目的

この調査は、日本大学学生の学生生活を、勉学行動・課外活動行動・学生生活充実感・大学への要望・卒業後の進路などについて、その意識と行動実態を正しく理解し、今後の大学づくりおよび学生への教育指導の向上のための参考資料とすることを目的に実施した。

## 2. 調査の対象と方法

調査対象は、本大学（大学院を除く）の学生（昼間・夜間部，短期大学部，通信教育部を合わせた）70,689人の中から無作為に抽出（抽出率10%と30%）した8,313人を直接の調査対象として、有効回答回収率70%を目標に調査を実施した。

なお、サンプル数については各学部の学生数を基準として別表の抽出率で調査対象数を決定し、サンプリングの方法については学生番号を用い等間隔無作為抽出法によってランダム・サンプリングを行った。

質問用紙の配布および回答票の回収については、次のいずれかの方法で行った。

- ① 調査対象となった学生を直接学生課又は研究室に呼び出し、内容の説明期限を指定して回答票を持参してもらう。（留置法）
- ② 学生生活委員，クラス担当等を通じて配布し，担当教員又は学生課窓口で回収する。  
(留置法)
- ③ 調査対象となった学生に郵送で質問用紙と回答票を送付し，期限を指定して学生課の窓口に持参又は返送してもらう。（郵送法）
- ④ 調査対象になった学生に日時・場所を指定して参集してもらい，その場で回答してもらい回答票を回収する。（集団調査法）

## 3. 調査内容

調査内容については，設問の内容を「Ⅰ.所属学部・学年等（フェイス）」「Ⅱ.授業」「Ⅲ.学生生活充実感・満足感」「Ⅳ.学外の勉学活動・課外活動」「Ⅴ.不安・悩み」「Ⅵ.アルバイトと奨学金」「Ⅶ.入学から現在までの意識・行動」「Ⅷ.卒業後の進路」の8分野に分けた。質問項目については学生が回答しやすいように配慮しながら30問の設問になっている。

なお，具体的な質問内容については，巻末の質問用紙を参照されたい。

#### 4. 調査期間

・調査実施説明会	平成24年5月23日
・調査実施期間	平成24年6月11日～22日
・調査回答票本部回収期限	平成24年6月29日

#### 5. 回答票回収状況

・調査対象者	8,313人
・有効回答回収数	5,761人
・有効回収率	69.3%

なお、各学部の調査対象数と回収数は別表のとおりである。

#### 6. なぜ10%抽出率のサンプルにしたか

日本大学学生生活実態調査は、各学部別に学生数の10%を抽出（一部の学部は30%抽出となっている）して調査対象とした。その理由は、統計上の見積りによるわけであるが、以下に概略的に説明しておく。

◎ 調査標本数（サンプル数：n）は、想定される出現比率（P）と目標精度（Dp）との間で次のような関係がある。

出現比率は信頼性区間を95%（危険率5%）に設定すると、

$$Dp = 1.96 \times \sqrt{P(1-P)} / \sqrt{n} \quad \therefore n = 1.96^2 \times P(1-P) / Dp^2$$

ここで、Pすなわち想定される出現比率を設定しなければならないが、質問用紙の設問ごとに選択肢の数が異なるため、本来はPが設問ごとに違った比率をもつことになる。しかし、設問を概観すると、選択肢が6～8カテゴリー程度である。したがって、1つの選択肢に出現する比率は理論値として15%前後になると想定される。そこで、P=0.15と想定してサンプル数を見積もった。次に目標精度（Dp）の設定であるが、これは精度が高いに越したことはない。しかし精度を高めると、必要サンプル数が極端に多くなる。例えば、目標精度を1%（ある学部の選択肢の1つが15%で他の学部の同じ選択肢の比率が15±1%以上になる場合に学部間に有意な差がある）にすると、 $n = 1.96^2 \times 0.15(1-0.15) / 0.01^2 = 4,898$ サンプルが必要となる。各学部のサンプル数を4,898サンプル程度確保することは実際には不可能である（学生数が4,898人より少ない学部が大半である）。

そこで目標精度を下げても5%とすると、196サンプルが必要となる。回収率を約70%と見込んで196サンプルを確保するには約280サンプルを必要とする。各学部の学生数と照らし合わせると(別表の学生数を参照), 医歯系の3学部及び薬学部を30%抽出, 他の学部を10%抽出で行うと何とか目標精度5%を達成するサンプル数を確保できる。すなわち, 選択肢の1つが15%の出現比率で他が $15 \pm 5\%$ 以上の比率をもったときに有意な差がある(両側検定で危険率5%)といえる精度に各学部の集計表が成り立つことになる。回収数が196サンプルより多い学部は, それ以上の精度があると解釈してよい。もちろん, 全日大で集計結果を見るときは, 精度は極めて高く, カテゴリー間で1%の差であっても統計上では有意な差をもっていることになる。

<別 表>

学部別調査対象数及び回収数

学 部 名	学 生 数 <sup>注1)</sup>	標 本 数	回 収 数	回 収 率
法学部	7,088	709	252	35.5%
文理学部	8,843	884	600	67.9%
経済学部	6,553	655	381	58.2%
商学部	5,958	596	372	62.4%
芸術学部	4,204	420	320	76.2%
国際関係学部	3,177	318	264	83.0%
理工学部	9,339	934	753	80.6%
生産工学部	6,732	673	596	88.6%
工学部	4,567	457	291	63.7%
医学部 <sup>注2)</sup>	721	216	216	100.0%
歯学部 <sup>注2)</sup>	788	236	204	86.4%
松戸歯学部 <sup>注2)</sup>	734	220	176	80.0%
生物資源科学部	7,163	716	619	86.5%
薬学部 <sup>注2)</sup>	1,528	458	262	57.2%
法・経済学部第二部 <sup>注3)</sup>	1,280	384	113	29.4%
短期大学部 <sup>注3)</sup>	1,181	354	309	87.3%
通信教育部 <sup>注4)</sup>	833	83	33	39.8%
合 計	70,689	8,313	5,761	69.3%

注1 学生数は、平成24年5月1日現在の実数であり、これを母集団とした。

注2 医学部、歯学部、松戸歯学部、薬学部の標本抽出率は30%である。その他の学部は10%抽出である。

注3 法・経済学部第二部および短期大学部は、学生は多いがキャンパスが複数に分かれているため、標本抽出率は各キャンパスごとに30%とした。

注4 通信教育部は、昼間スクーリングの学生を母集団とした。